

なすまどか議員が一般質問を行いました

住みよい市営住宅へ住環境の改善を！

今年夏に行った市営住宅入居者へのアンケートでは、多くの要望や意見が寄せられました。9月6日、なすまどか議員が一般質問を行い、アンケートに寄せられた声をもとに市営住宅の住環境改善を求めました。

畳替え、給湯器交換など計画修繕予算の拡充を！

市営住宅では、経年劣化する畳・給湯器などに対して、市が交換周期を定め、取り換えを行う計画修繕が行われます。しかし、周期を迎えても交換されない団地が多く残されており、入居者から改善の要望が多く寄せられています。

なす議員は、「畳替えで2970戸、

給湯器の取り換えで1086戸、風呂釜取り換えで1596戸もの市営住宅で計画修繕の積み残しがある。」と指摘。予算を拡充し更新期間内に完了するよう求めました。市からは「計画修繕の予算を増額している。早期解消に向け取り組む」との回答がありました。

上層階から1階への住み替えへの財政的な支援を！

病気または介護などで階段を上ることが困難となり、1階への住み替えを希望する方がいらっしゃいます。しかし、修繕や引越しなど

で20万円ほどかかるために、住み替えを断念せざるを得ないケースがあります。なす議員は、住み替えに対しての補助制度を求めました。

日本共産党
熊本市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1
発行：日本共産党熊本市議

NO. 1250
2021年9月19日号
電話 328-2656
FAX 359-5047



メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団

検索



上野みえこ (中央区)



なすまどか (東区)

空き家の修繕をすすめ、若い世帯の入居促進を！

市営住宅には、1836戸の空き家（未修繕で入居できない住宅1285戸、募集しても入居希望がない住宅551戸）があります。一般質問では、修繕予算を増やし空き家を解消すること、また学生や若い世帯が入居できる枠

を増やすよう求めました。市からは「学生も含めた若年層世帯の入居促進の取り組みを10月より実施する」との答弁がありました。



浴室への換気扇設置、ハトのフン被害への対応を！

アンケートでは、「浴室に換気扇がないためにカビなど不衛生な状況がある。」「ハトのフン被害を解消してほしい」との要望が多く寄せら

れました。一般質問では、こうした課題への対応を求めました。市からは「ハトのフン被害について、原因・対策を調査する」との答弁がありました。

【控室から】
週に一度のお風呂
なすまどか
今から6年前、市営住宅で暮らす80代の女性から相談がありました。体が自由に動かなくなり、介護認定を受けた。団地の浴槽が深く（昔のお風呂で、正方形で深さが私の腰ぐらゐまであるものでした）、浴槽に入ることができず、出ることができない。週に一回、上背のあるヘルパーさんが来る時しか入浴できないという切実な相談でした。
私は、すぐに議会でこの問題を取り上げ、改善を訴えました。大西市長からは、「バリアフリー化への対応も含め、適切な維持管理に努める」との答弁がありました。5年間改善されず、その女性は、高齢者施設への入居のために、昨年、市営住宅を退去されました。
週に一度の入浴：暑い夏に汗も流せず、寒い冬に温かい湯船にもつかることができない生活は、どんなにつらかったでしょうか。
中心市街地には数百億ものお金が投じられながら、市営住宅の深いお風呂が放置され続けたことに怒りがこみ上げます。市長が掲げる「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」。ただのスローガンにせず、一人ひとりの市民の実生活に、もっともっと思いをよせることが大切だと感じます。

市役所の耐震評価 矛盾に陥った「山下設計」 建設時の実施設計と2020年耐震性能評価の食い違い

2020年度、市役所本庁舎の地下連続壁や地下杭の再調査を(株)山下設計に委託しました。(株)山下設計は、現庁舎の実実施設計を行った事業者です。その結果は、現庁舎が「耐震性能を有しない」というものでした。

株)山下設計の2020年耐震性能評価では 「すべての地下杭が損傷し、耐震性能を有しない」

山下設計が実施設計した市庁舎の「竣工図」には、「地下連続壁は、耐震壁として利用できるものである」と明記されています。一方、昨

年の耐震性能評価では、「地中連続
続壁は、大地震時の杭に作用する力の低減効果はない。」と結論付けています。

どちらも、山下設計が行いましたが、全く違った結果です。

市が発行した「市制100周年記念誌」の記述 「関東大震災・マグニチュード7・9の2倍クラスに持ちこたえる」

1989年10月に熊本市と市制100周年実行委員会が発行した「熊本市制100周年記念・熊本・歴史と魅力」には、「1923年9月1日の関東大震災（マグニチュード7・9）の2倍クラスにも持ちこたえる耐震構造」と記載。この記述は、現庁舎の設計・監理を行った（株）山下設計の実実施設計に基づくものです。



自らの優れた設計を否定する評価を行った山下設計

現庁舎は、(株)山下設計が行い、設計段階で敷地地盤調査を早稲田大学理工学研究所が行い、(財)日本建築センターの「高層建築物構造評定」をクリア。1979年に建築基準法第38条に基づく建設大臣認定を取得。山下設計の2020年耐震評価は、優れた耐震構造の設計を自ら否定するものです。

中止の「熊本城マラソン」へ4593万円の支出に 市民の理解は得られません

中止の「火の国まつり」「江津湖花火大会」は支出「0円」

新型コロナの影響で、今年の「熊本城マラソン大会」は7月に中止となりました。同じく「火の国まつり」「江津湖花火大会」も中止でした。「火の国まつり・

江津湖花火大会」は、実行委員会への負担金が支出されていませんが、「熊本城マラソン」だけが4,593万円も支出されています。

負担金の大部分は「社会教育振興事業団」への委託金 1年分を全額支払うことには納得できません

熊本城マラソン負担金の大部分を占める社会教育振興事業団への委託金は、中止にもかかわらず、12か月分の3,716万円が支払われています。中止決定後

の分は、支払い中止または減額すべきです。中止後も、実施した時と同様に1年分を全額払っていることに市民の理解は得られません。

自治体の会計原則に則った「負担金」の執行を

熊本城マラソンの負担金は、中止になったことで次年度開催の準備に使ったり、委託事業の成果品もないまま、契約のない事業(災害支援など)まで行われていることがわかりました。

熊本市が実行委員会を実施するイベントへ支出する「負担金」

の原資は「税金」です。自治体財政の基本である「会計年度独立の原則」や「単年度予算の原則」がおろそかになり、「熊本市会計規則」の運用も曖昧な執行ではいけません。上野みえこ議員は、質疑で関係法令に則った執行を求めました。